

## 事業概要書

事業名	障がいをもつ子どもたちのための放課後等デイサービス事業所整備事業				
開始日	2022年1月17日	終了日	2022年7月31日	日数	196日
団体名	NPO ガラパゴス（児童支援事業所ガラパゴス）／株式会社 RIGHT PLACE				
（カウンターパート）	一般社団法人おもやい				
担当者名	小柳由加里／木須亮太	スタッフ人数	15人		

事業費総額（税込）	7,495,000 円
CF 事業枠	2,550,000 円
その他資金	4,945,000 円

事業目的	被災後の仮活動拠点から、被災前と同等以上の機能をもった事業所へと移転・整備することで、障がいをもつ子どもたちの居場所をつくり、彼らとその家族が安心して生活できる地域づくりに貢献する。
事業全体の概要	<p>●<b>児童支援事業所ガラパゴスとは</b>          佐賀県武雄市の児童支援事業所「ガラパゴス」は、6歳から18歳までの精神や知的障がい特性を持つ子どもたちのための放課後等デイサービス事業を行う施設で、2019年4月に開所。学校から事業所、自宅までの送迎や、個人に合わせたトレーニングプログラムなどを提供しており、発達障がいや自閉スペクトラム症などのある子どもたち25人が利用している。どのような障がいがあっても受け入れるというモットーで、ほかの施設でも受入れを拒まれるケアが難しい子どもも通う、地域での「最後の砦」とされている重要な施設である。子どもたちの将来を見据えて生き抜く力を養う徹底したサポートを行っている。          より多くの子どもたちを受入れるために、2021年4月に2カ所目となる佐賀県基山町にも「ガラパゴス」を開所。          また、事業所の運営体制に関しては株式会社 RIGHTPLACE と NPO ガラパゴスとの協働体制をとっている。2019年の豪雨の際、災害復興支援の目的で NPO ガラパゴスを立ち上げ、それ以降、主に災害からの復旧復興業務を担っている。</p> <p>●<b>取り組むべき課題</b>          &lt;豪雨による被災状況&gt;          佐賀県武雄市は8月の豪雨により市内の広範囲が浸水被害にあった。被災から約5ヵ月が経とうとしているががたつが、いまだに被災家屋の修繕が終わらない、生活用品が揃わないなど以前の生活に戻ることができない地域住民も多い。ガラパゴスも事業所が1m以上浸水、設備や備品は全て使用できなくなった。現在は武雄市内の中学校の空き教室を仮拠点として活動を継続している。          &lt;仮拠点での現況・課題&gt;          仮拠点には最低限の備品を揃え、子どもたちの受け入れを行っている。しかし、以前は子どもたちの能力向上やストレス発散のために、パソコン機器や室内で体を動かすことのできる遊具も揃えていたが、スペースが以前の約半分になってしまったことで、多くは購入または設置ができず子どもたちが大きく体を動かしたりすることは難しい。そのため、近くの公園や事業所外での課外活動を取り入れている。また、スタッフの事務作業スペースがないことから、空き時間、ガラパゴス基山や被災した事務所の一部を仮復旧し、行っているほか、個別相談を受けるためのスペースの確保も難しい状況である。これらに加え、拠点が移ったことで被災前よりも学校・事業所・各家庭間の送迎にも人手や時間がかかる。そのため平時より移動費や人件費も増加して</p>

いる。

子どもたちは仮拠点の環境に徐々に慣れてきたが、環境変化への対応が難しい子や室内で落ち着いた活動ができないことで、ストレスが溜まっている子もいる。被災とコロナ禍の複合災害により経済的、精神的に不安定な家庭も昨年より増加した。おやつによる補食など食事面のサポートをすると共に、児童相談所や学校とも連携し、放課後だけではなく、各家庭の包括的なサポートを行っている。そのため通常よりもスタッフを多めに配置するなどの対応が必要となっている。

<地域全体への影響>

また現在受入れている子どもたち以外にも退所した家庭や地域の障がいをもつ子どもがいる家庭から相談を受けてきた。困ったことがあればガラパゴスに相談を、と考える家庭や他施設も多い。しかし現在の仮拠点は地域住民から活動の様子が見えず、事業所がどこにあるかもわからないうえに、元の事業所はほぼ無人のため、被災によって地域の「最後の砦」がなくなってしまったのではないかと不安を感じて問い合わせる地域住民もいる。全国からも家族からの相談や障がい者支援団体の視察などの問合せがあるが、仮拠点では対応できないため現在は受入れを停止している。

上記の課題を解決し、子どもたちの居場所を守るためには、子どもたちとその家族への細やかなサポートを継続しつつ、被災した元の事業所と同等以上のスペース、設備がある新拠点を探し、確保する必要がある。新拠点探しや移転作業を行うためには人件費や移動費が通常より増加する見込みである。

#### ●パートナー協働プログラム対象事業

<子どもたちを受入れる事業所の仮拠点から新拠点への移転と整備>

被災前と変わらず、子どもたちとその家族へ細やかなサポートと同時並行で事務作業や新拠点探しが滞らないよう移手段を確保し、スタッフを配置した上で新拠点を探す。子どもたちがストレスなく活動できるよう、仮拠点だけではなく、ガラパゴス基山や事業所外での課外活動も取り入れる。

次年度の子どもたちを受入れるため、2022年3月頃までには新拠点へ移行、あるいは新拠点がそれまでに見つからなかった場合は、いったん元の事業所を仮復旧させ、子どもたちの受け入れ場所と事務所機能を確保した状態で、新拠点探しを継続させる予定。今回は2019年の豪雨に続き、2度目の浸水被害となるため、新拠点は浸水など被災リスクが低い場所に置く。また障がいをもつ子どもや家族は被災時に他の住民と一緒に避難所へ避難することが困難である。災害時には受入れている子どもたち以外にも、地域の障がいをもつ子どもたちが避難してきてことができ、いずれは福祉避難所としても機能するような事業所へと徐々に整備を進めていく。

新拠点（または元の事業所仮復旧）移行後は、子どもたちが調理体験などできるように備品を揃える。また子どもたちがパソコンでトレーニングを行い、スタッフが事務作業できるようネットワーク環境や防犯設備など基本的な事業所設備を整備する。

また、新拠点の整備や今後の運営には継続的に資金が必要になることから、現在もクラウドファンディングを実施している。他団体からの物資や資金支援なども得ており、行政の復興関連補助金なども検討している。また継続的に個人や企業からの寄付を募るため、事務作業の体制を整え、SNSなど情報発信も強化をしていく。

#### ●期待される効果

- ・新事業所を整備することで、子どもたちが安心して毎日を過ごせる地域の居場所を確保することができる。
- ・遊具、スポーツや調理体験ができる設備を整えることで、個々に合った支援を行うことができ、子どもたち自身の能力を伸ばすことができる。
- ・障がいをもつ子どものいる家族が、学校や行政以外にも相談できる場所ができる。
- ・スタッフが事務作業できる環境を整えることで、安定した事業運営と今後の資金獲得に繋げることができる。
- ・地域の障がいをもつ子ども関わる施設や団体とも継続的に連携することができ、地域全体で子どもたちを見守る体制ができる。

事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	裨益者 (誰が、何人)
備品調達による新拠点の整備事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がいをもつ子どもたちとその家族へのサポート</li> <li>・ 子どもたちの調理体験用調理備品、トレーニング・スタッフの事務作業用のネットワーク設備の手配</li> <li>・ 事業所備品や防犯設備の設置</li> <li>・ 子どもたちの送迎、課外活動、新拠点探しや移転のための移動費用の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受入れている子ども 25人とその家族</li> <li>・ 地域の障がいをもつ子どもやその家族</li> <li>・ 学校や地域で障がいをもつ子どもをサポートする団体</li> </ul>